

日中友好協会 八王子支部ニュース



みんなで参加・多彩な活動! 拡げよう・大きな“わ”! 佐藤副支部長: FAX:042-645-8415

2022. 10. 23 聊聊天会 liaoliaotianhui (おしゃべり会)

「芥川龍之介の中国旅行」 佐久間 徹さん



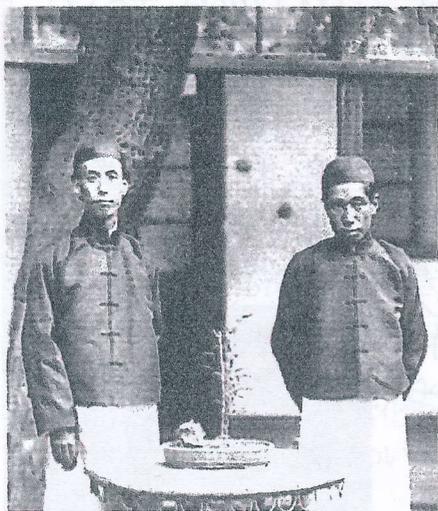
芥川龍之介が中国とどんな関係があったのか、「芥川龍之介の中国旅行」という、ちょっと異色で想像もつかない題名の聊聊天会でした。

講師は芥川研究の第一人者で本も書かれている、佐久間徹氏。

用意された資料には副題として「芥川は21世紀の予言者、プロレタリア作家、日中友好運動の先駆者」と書かれているではありませんか。ますます興味が湧いてきます。

会が始まる前に、佐久間氏が黒板に芥川の代表作品を書かれたのですが、知らない題名のなんと多かったことか。「読んだことのある方、手を挙げてください」と言われたのですが、ゼロというのが本当に多かったのです。

芥川が中国に旅行したのは4か月。時は1921年、中国共産党ができた年です。大阪毎日新聞社海外視察員、つまりジャーナリストとして中国を訪れたのですが、中国に懂れていたこと、谷崎潤一郎の中国旅行後の作品に触発されたこと等の理由があったとか。もしかすると日本で1番プロレタリア文学を読んでいたのではないかという指摘には驚きました。



支那服を着て、芥川と竹内逸三

「いい加減なプロレタリア文学者よりもっと深いところまで進んでいったと思う(菊池寛)、「意外にも、私は我々の近くに立っている氏を発見した(宮本顕治)」という言葉が残って

いるそうです。

とにかく中国の革命家や学者等と会うなど中国旅行で得たものは多かったようで、その後の作品にもその影響が表れたようです。反戦作品を多く書き、伏字の××だらけの小説「将軍」



最後の写真

は、渾身を込めた反戦小説だったのです。

思い出したことがあります。社会科の資料で芥川が「中国の女学校で、(反日の運動で)日本製の文房具を一切使用せず、学習する姿を見た。今に中国は大した国になるぞ」と友人に手紙に書いていたのです。

現在、「日本昔話」の「桃太郎」は、鬼ヶ島を攻撃しているが、あれは正しいのか?と言われていますが、なんと芥川が1924年刊の「桃太郎」で「熱帯の豊かな島で平和に暮らしていた鬼の棲む鬼ヶ島を侵略。殺戮、強姦、略奪を尽くし島を支配。以後島の若鬼は独立を計画・・・」と書いているのです。この島とは朝鮮半島を指している・・・今から100年前にこれを書いていたとは驚くばかりです。

「侏儒の言葉」には帝国主義の定義を始め、驚くばかりの内容を書いています。

芥川というと自殺のことばかり気になります。が、作品に込められた深い内容を理解したいと思いました。特に佐久間氏が「ぜひ!」と推薦してくださった「秋山図」の小説は絶対読みたいと思います。

最後に佐久間氏がまとめられたのは「日中友好運動は互いの現実を正確に認識し合い、過去の歴史と真摯に向き合うことが肝要。芥川のように相手国の良い面も悪い面も正しく見るのが大切。国際法に反する行為や相手国の軍拡を理由に軍拡を行うことは日中友好に反する」でした。

豊富な資料を用意してくださり、濃い内容のお話、ありがとうございました。参加者が少ないのが残念でした。(加藤千音)

「731部隊」覚え書き③

五井 信治

1930年後半に、ハルビンから南へ約20km行った平房に、731部隊の大きな建物が完成し、いよいよ、研究を本格化します。最盛時は3000人を越す隊員がいた秘密部隊731部隊ではどんなことが行なわれていたのでしょうか？

731部隊には、研究施設（ロ号棟）、実験に使う人を収容する施設（7棟、8棟）の他、実験動物を飼っていた動物舎や、昆虫舎、凍傷の実験をした凍傷実験室、ペストの実験棟、飛行場、その他神社や隊員の子どもの通う学校、運動場、官舎、少年隊舎など多くの施設がありました。

森村誠一氏の『新版 悪魔の飽食』には、その731部隊の要図が載っています。その中のロ号棟（中国名：四方楼）で、細菌戦の研究を進めていました。3階建ての建物ですが、高さは、普通のビルの5階建てくらいの高さがあり、その中に、7棟、8棟という、実験に使う人間を収容した小屋がありました。（通称「マルタ」小屋）。実験に使う人を、人間として見るのではなく、1本、2本と呼んで、全く丸太の様に数えていました。

2階、3階に研究室があつて、いかに毒力の強い菌を作れるか、研究していました。

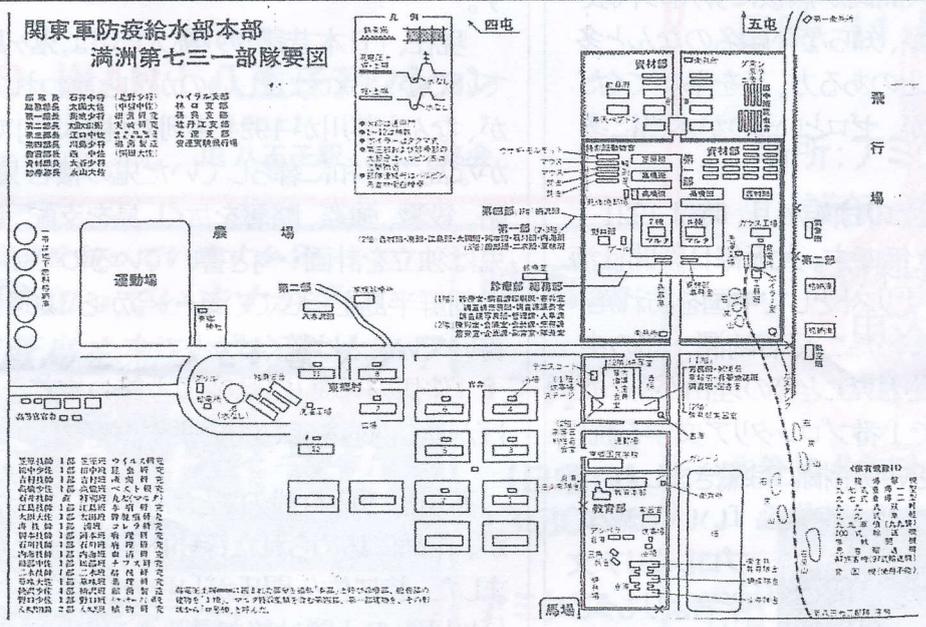
「マルタ」小屋をロ号棟のビルで囲ったのは、平房の移転する前に、背蔭河の施設で、脱走事件があり、問題になったからで、平房では、高いビルで囲み、脱走することを不可能にしました。その結果、731部隊では「マルタ」（被験者）で生きて生還した人は、誰1人いませんでした。

このロ号棟の、2階、3階では、細菌戦の基礎研究が行なわれていました。

第1課では、腸チフス、2課ではコレラ、3課は生理・「マルタ」（捕虜）の管理を吉村寿人という人がやっていました。吉村班は、凍傷実験（「満州」は寒いので、日本兵の凍傷をいかに治療するか、「マルタ」を使って実験をしていた。）をしていました。その他、レントゲンで身体検査をしたり、放射線を使った実験をしていた宮川班などがありました。

第5課はペスト、第6課は病理、第8課は病毒、第9課は水棲昆虫、第10課は血清、第11課は結核などの研究をしていました。この他に、毒ガス実験

が 関東軍516部隊などと共同で頻繁に行なわれました。この結果、ペスト菌やコレラ菌、チフス菌を強毒化することに成功し、それを細菌兵器として使いました。ペスト菌などの細菌の毒力を高める方法は、生きている人間にペスト菌を注射し、ペスト感染させ、死ぬ前に



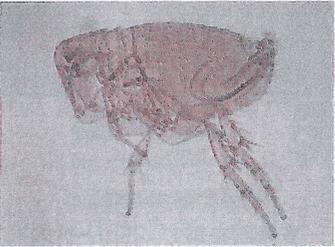
満洲第七三一部隊要図（新版『悪魔の飽食』より）



ロ号棟の1階は、細菌を製造する工場になっていて、日夜、いろいろな細菌を製造していました。

その血を採取し、そのペスト菌をまた違う被験者に通すことによって、毒力を高めていきました。

その強毒な菌を鼠に注射し、鼠をペスト菌に感染させて、その血をノミに吸わせて、ペスト感染マを作り、空から雑穀と共に撒いて、細菌戦をしました。





連合軍は洛陽にとどまっていたが、すでに、諸侯を募った曹操も長沙太守の孫堅も連合軍を離れていた。洛陽は、董卓によって焼かれ、廢墟となっていたため、十分な食料の補給もできない状態であった。兵の離散に加え、夜盗、略奪が各所で起こるようになっていた。

こうしたなか、諸侯もすでに董卓が洛陽を捨てて長安に逃げているなかで洛陽にとどまる意義を見出せず、早期の解散を求めようになっていた。そこで、総大将の袁紹は解散を指揮し、諸侯は各地に帰っていった。劉備・関羽・張飛は公孫瓚に国元に一緒に来てもらえないかと頼まれるが、放浪の生活を続けるのであった。

ところで、諸侯が解散した後も袁紹の軍陣では略奪や軍規違反が相次いだ。それは食料の支給がままならないからであったが、袁紹自身もこれを憂慮していた。

袁紹の配下は、近くにある豊かな冀州を攻め、これを落とすことを策謀した。まず、公孫瓚と共に冀州に攻め込もうと誘い、一方で冀州太守の韓馥には公孫瓚が攻めてくると知らせ、袁紹がその防備を行うことを装い、冀州にだまし討ちするということのであった。

さて、韓馥に袁紹からの手紙が届くと韓馥は公孫瓚の奇襲をおそれ、袁紹に守備を請う使いを出す。ここで、韓馥の配下の一人が袁紹の策略を看破し、袁紹を冀州に入れられないように進言するが、その案が受け入れられることはなかった。袁紹は冀州に無血入城するのであった。

(熊谷市 けやき総合法律事務所)

日中友好のために日本側がすべき3つの事 10/16 人民日報系「環球時報」より

① 『日中国交正常化の初心を守るべき』

- ・ 50年の実践は、友好と平和的共存の日中両国民のニーズと時代の発展のニーズに合致したことを証明した。
- ・ 一方近年の日本の対中政策は、ますます右翼思想と冷戦思考の影響を受け“中国脅威論”を騒ぎ立て、日中関係の正常な運営に深刻な影響を与えている。
- ・ 「隣国に災いを押し付ける」ことと「隣国に優しくする」ことの間で真に日本の国益と民衆の幸福に合致する決断をすべきである。

② 『二国間関係の根本となる正しい歴史観の確立を堅持すべき』

- ・ 1972年に日中国交正常化を実現した「日中共同声明」は歴史問題について、重要な共通認識に達した。
- ・ 日本側が過去に戦争によって、中国人民に多

大な損失をもたらした責任を痛感し、深い反省を表明することを明確に提起している。

- ・ 「日中共同声明」は日中関係50年の健全な発展の重要な保障の一つであり、当時の日本政府が正しい歴史観を堅持したことの現れである。

③ 『日中友好のより十分な民間動力を維持し、発掘する必要がある』

- ・ 「民をもって官を促す」方式で日中国交正常化を実践させた。
- ・ 「親米反中」の勢力がある中にも、両国圧倒的多数の国民が引き続き、平和的、友好的、穩健的な二国間関係を望む。
- ・ 両国は歴史を学び直し、最低ラインを守ると同時に平和な友好共同発展の新たなチャンス、新たな原動力を模索しなければならない。
- ・ ……と締めくくった。(佐藤一義)

山越拓児さんの
世相を映す替え歌⑳

「キシダ総理へ」
～「北の宿から」



♪あなた終わりが見えている
日ごと支持率下がります
憲法違反の国葬を
世論背いて押し通す
それが総理の
することでしょうか
辞めてください
キシダ総理

♪暮らし苦しむ民の声
上がり続ける物価高
消費減税背を向けて
医療費値上げ強行する
それが総理の
することでしょうか
止めてください
インボイス導入

♪点検したと言うけれど
ボロがつぎつぎ明るみに
反省してると言うけれど
何を反省かわからない
統一協会との
癒着関係
究明できなきゃ
辞めてください

核兵器禁止条約に
日本も参加しよう！

今こそ
9条を世界に！

原発再稼働
新設絶対ダメ！

軍拡より
攻められない
外交を！

だれも
憲法変えるの
望んでない！

敵基地攻撃
(反撃能力)は
戦争をしかけること！

第88回
NO WAR! 八王子アクション
11月19日(土)
10時30分～11時30分 JR八王子駅 北口 集会

切り絵教室

干支(兎)を切ろう

切り絵(剪纸)は中国の伝統工芸
です。講師のていねいな指導で、来
年の干支(兎)を切ろう。紙やカッタ
ーはこちらで用意します。

日時:11月27日(日)
13:30～

場所:アミダステーション

講師:佐久間徹さん

材料費:500円

申込先:中道

042-664-5980

先着10名さまとさせていただきます。
必ず申込みをお願いいたします。

あなたは戦争を知っていますか?
満州を知っていますか?
葫蘆島を知っていますか?

ころとうだいけんへん
葫蘆島大遣返

～日本人難民105万引揚げの記録～



映画会

12月
11日
(日曜日)
13:30～

アミダス
テーション

戦争と満州引
き上げの真相
を描いたドキ
ュメンタリー
映画

《日中友好協会八王子支部日程》

11月27日(日) 10:00～理事会
13:30～ 切り絵教室

「干支の兎を切る」

12月11日(日) 10:00～理事会
13:30～ 映画会

「葫蘆島大遣返」

12月21日(水)～26日(月)

中央図書館地下展示室

パネル展「731部隊・原爆・ビキニ」

日中友好新聞は、東北アジアの平和に役立つ確かな情報と中国の文化・歴史の豊かな情報を持つ、
月2回発行のタブロイド判8Pの新聞です。嫌・反中報道が溢れる中、公正・中立な報道をしています。
ぜひご購入下さい。 1ヶ月550円(送料込み)購読申込 042-645-8411:佐藤